

# ビール・発泡酒・新ジャンル商品の 酒税に関する要望書

2022年8月

## ビール酒造組合

ホームページ <https://www.brewers.or.jp/>

会長代表理事 野瀬 裕之

会員会社 アサヒビール株式会社  
キリンビール株式会社  
サッポロビール株式会社  
サントリー株式会社  
オリオンビール株式会社

## 発泡酒の税制を考える会

ホームページ <https://www.happoshu.com/>

会長 野瀬 裕之

会員会社 アサヒビール株式会社  
キリンビール株式会社  
サッポロビール株式会社  
サントリー株式会社  
オリオンビール株式会社

## 酒税に関する要望事項

平成29年度税制改正により、ビール・発泡酒・新ジャンル商品の酒税率は、段階的に見直され、2026年10月に1㎗あたり155,000円に統一されることになっています。これによりビールの税率は、1㎗あたり65,000円の減税となる一方、発泡酒は20,750円、新ジャンル商品は75,000円の増税となります。また、同じ発泡性酒類に分類される「その他の発泡性酒類」は、1㎗あたり100,000円となります。

ビール・発泡酒・新ジャンル商品トータルの市場規模は直近で、1994年度ピーク時の6割弱にまで減少しており、コロナ禍の影響も大きく、需要は厳しい状況が続いています。

ビールメーカー各社は、平成29年度税制改正を踏まえ、中期的な対応をすすめています。

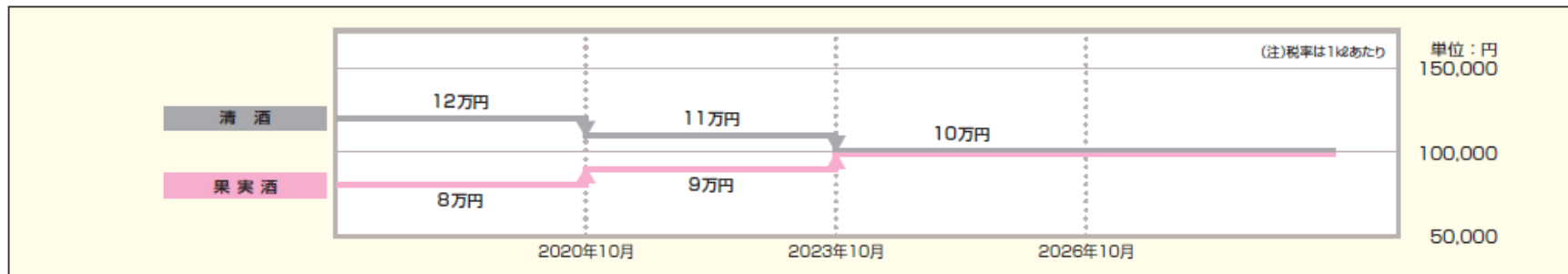
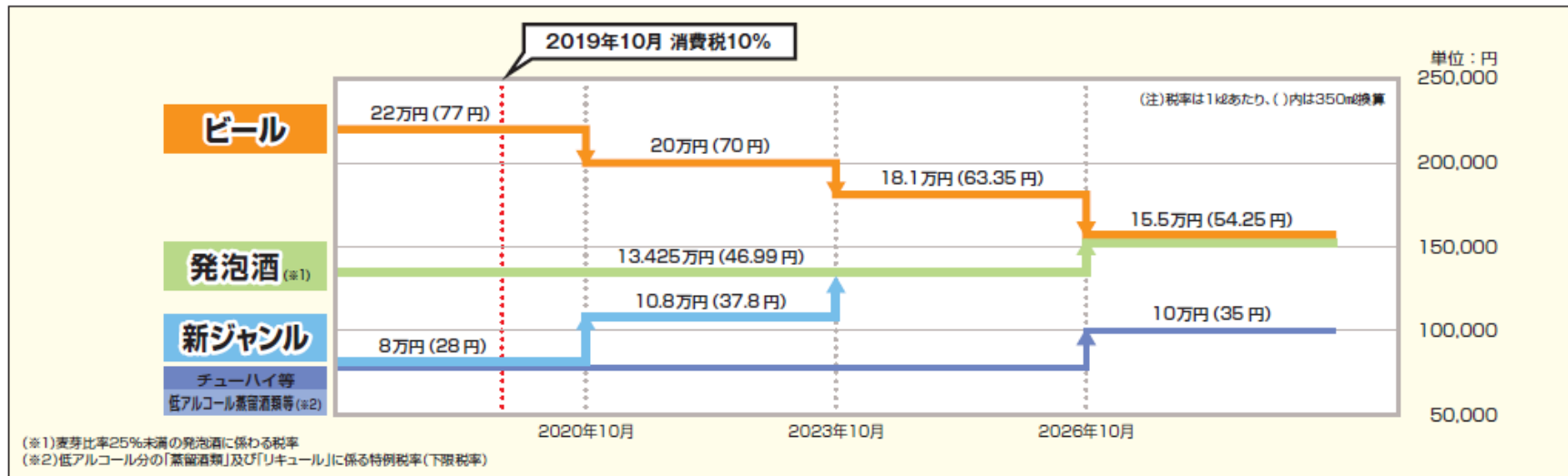
しかしながら、2026年に統一されるビール・発泡酒の税率は、他の酒類と比べ依然として格差があり、諸外国と比べても高いといえます。

**私たちは、ビール・発泡酒のさらなる減税を要望します。**

# 平成29年度 酒税改正の概要

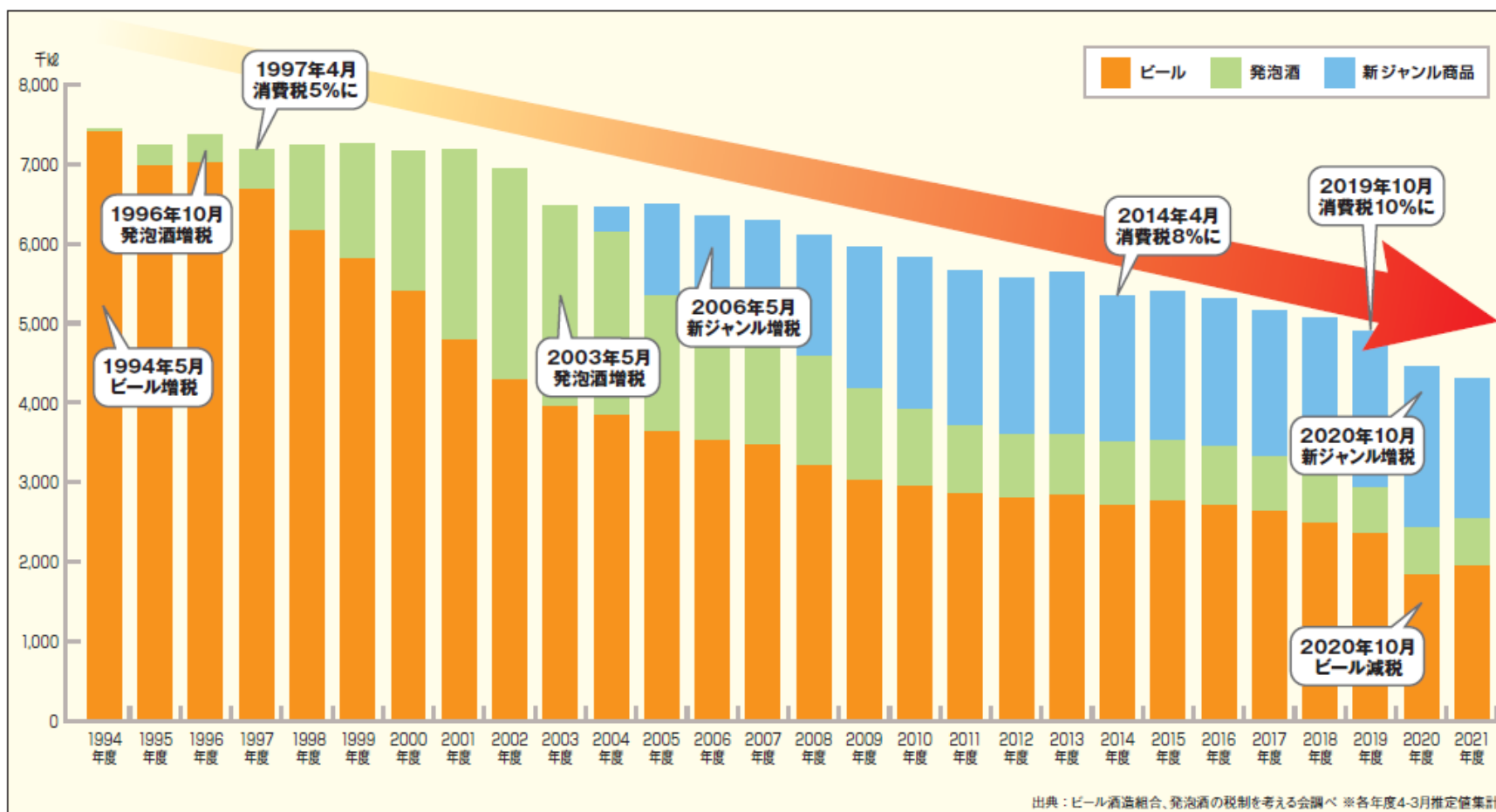
- 税率の見直しは、消費者や酒類製造者への影響に配慮して、十分な経過期間を確保しつつ段階的に進めます。
  - 今回の改革は、厳しい財政状況や財政物資としての酒類の位置付け等を踏まえ、税収中立で行います。
  - 税率の段階的な見直しは、その都度、経済状況を踏まえ、酒税の負担の変動が家計に与える影響等を勘案した上で実施します。
- 出典 パンフレット「平成29年度税制改正」平成29年4月財務省(財務省ホームページ)

## 税率構造の見直し



# ビール・発泡酒・新ジャンル商品の市場推移

ビール・発泡酒・新ジャンル商品トータルの市場規模は直近で、1994年度ピーク時の6割弱にまで減少しています。



## 酒税の税率 (2026年10月以降)

ビール・発泡酒の税率1ℓあたり155,000円を350ml缶換算でその他の発泡性酒類(缶チューハイ等)と比較すると、約20円も高くなっています。

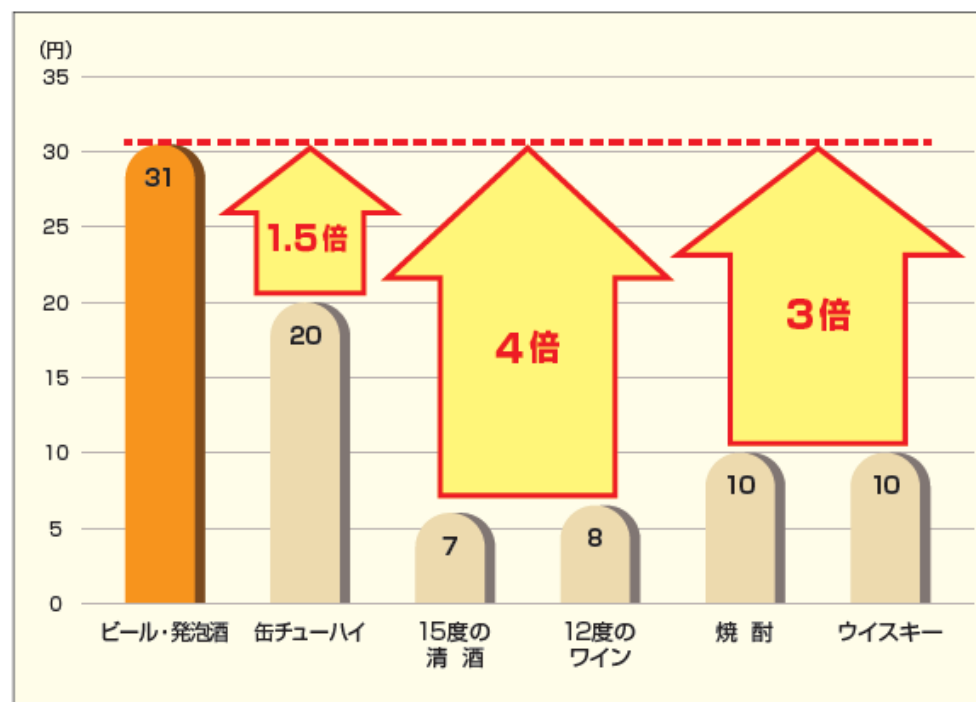
さらに、アルコール1度1ℓあたりで比較すると、缶チューハイの約1.5倍、醸造酒類の約4倍、蒸留酒類の約3倍もの高い税率が課されています。

1缶(350ml)あたりの酒税額



※ホップ及び一定の苦味量を原料としない酒類  
※缶チューハイ等

1度1ℓあたりの酒税額



## 諸外国との酒税額比較（日本は2026年10月以降の数値）

ビール・発泡酒の税率1ℓあたり155,000円の酒税負担は、国際的に見ても、非常に高率かつ高額で、フランスの約3倍、ドイツの約12倍、アメリカの約5倍もの負担となっています。

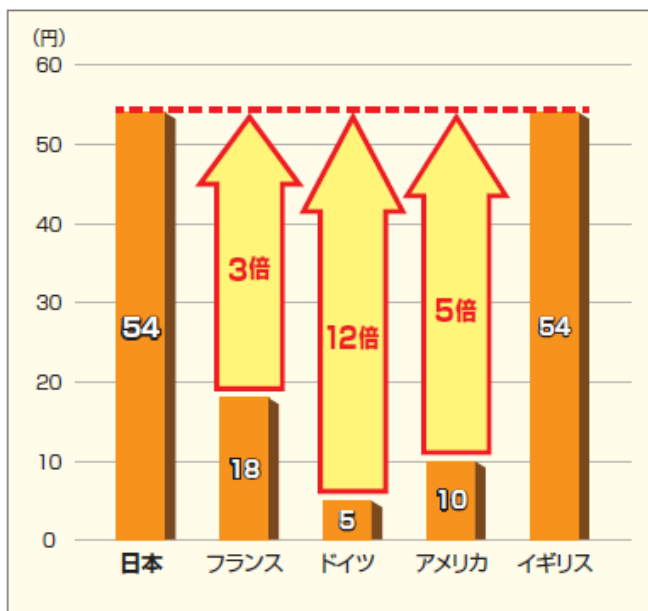
また、醸造酒であるビールに対して、アルコール分1度あたりで、蒸留酒に比べ高い酒税を課しているのは、主要諸国の中で日本だけです。

※欧米ではおおむね、蒸留酒には高い税率、醸造酒であるビールやワインには低い税率が標準となっています。

### ビール・発泡酒の酒税

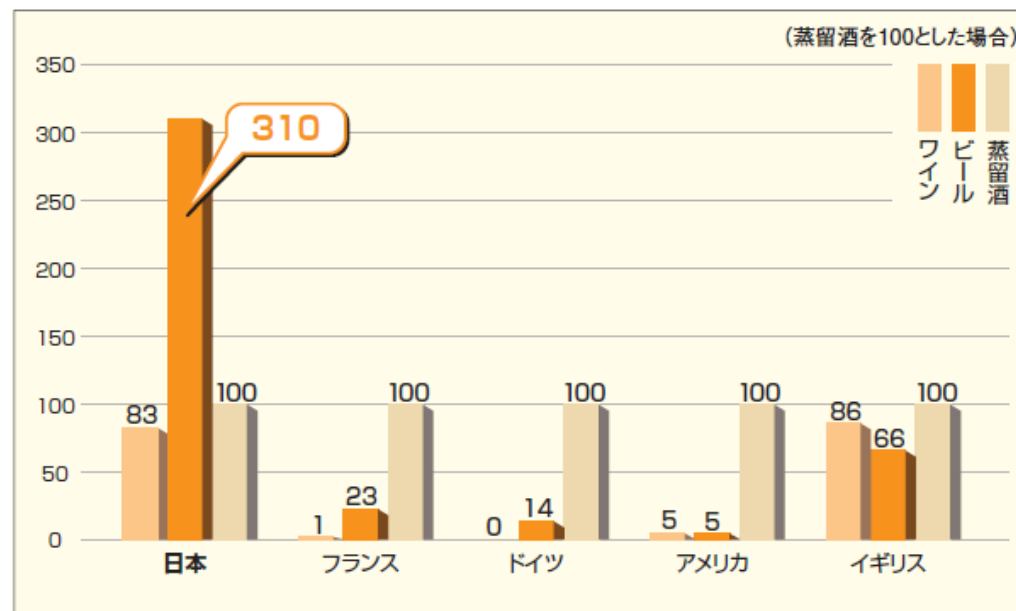
350ml缶あたりに占める酒税負担額

※各国は350ml缶あたりに換算した酒税額



### ビール・ワイン・蒸留酒の酒税

主要諸国におけるアルコール分1度あたりの酒税額度数

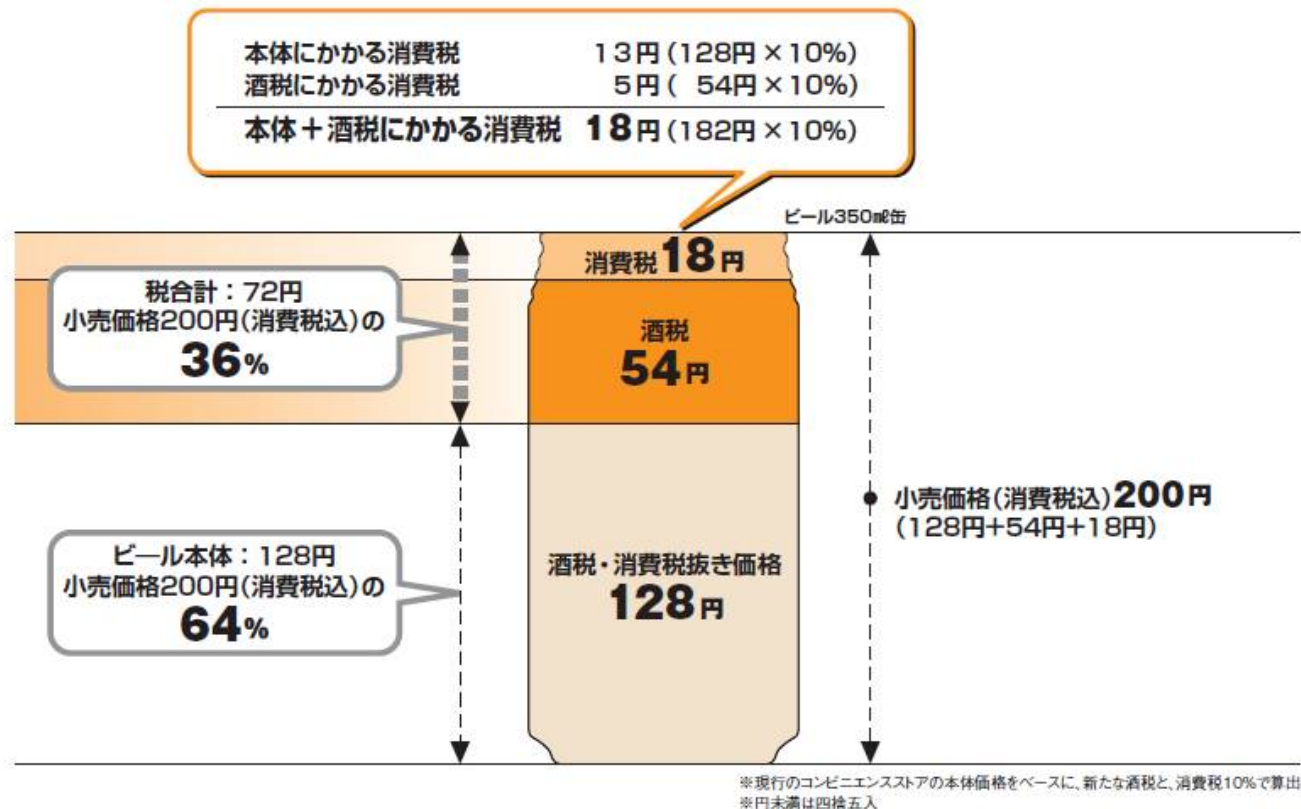


資料：「ビール酒造組合」調べ(2022年1月)、アメリカはニューヨーク市のデータ、邦貨換算は2022年5月10日時点のTTMLレートによる、円未満は四捨五入

## 小売価格に占める酒税、消費税 (2026年10月以降)

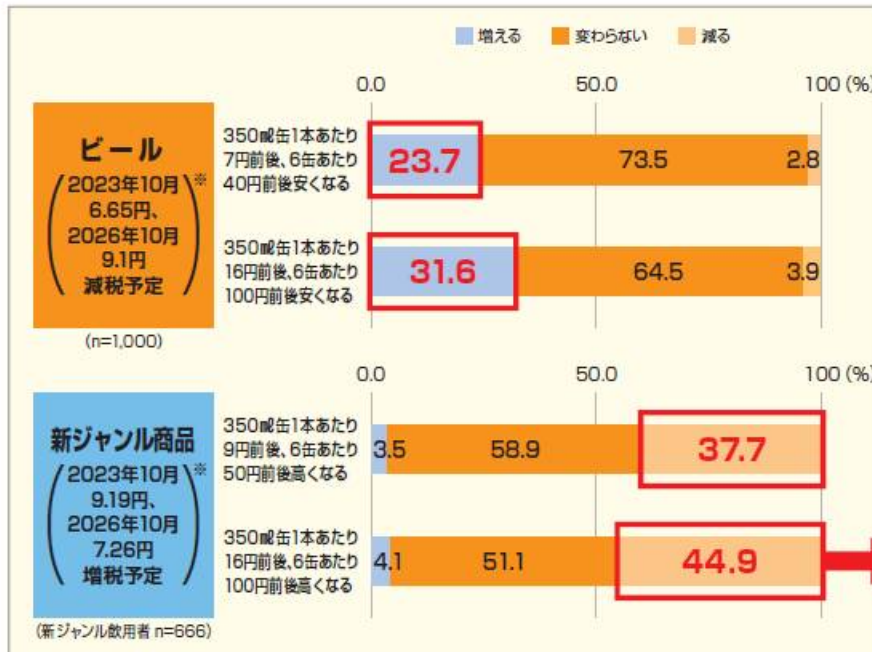
ビールにかかる高い酒税にも消費税がかけられています。

酒類には酒税と消費税が併課されており、小売価格(消費税込)の約36%が税金となっています。ビール350ml缶で見ると、消費税18円のうち、約3割にあたる5円は酒税にかかる消費税となっています。



# 消費者の皆様の声

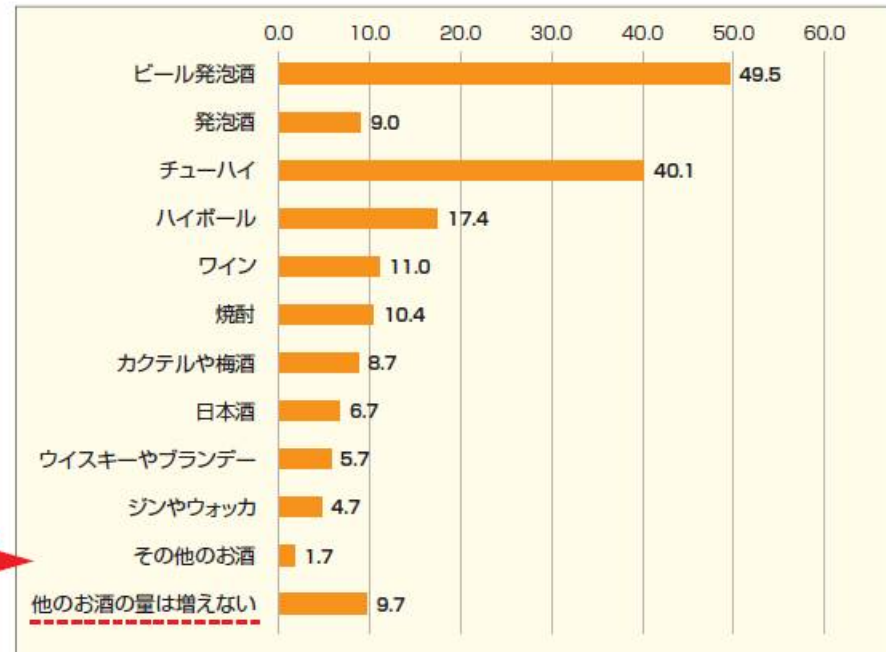
Q. ビール・新ジャンル商品の価格が変わった場合、飲む量はどのようになりますか？



※ ( ) 内は350ml換算

ビールは今より16円前後安くなると約32%が飲用が「増える」という結果でしたが、新ジャンルは今より16円前後高くなると飲用が「減る」と回答した方が約45%に上りました。

Q. 新ジャンルのかわりに、どのお酒を飲むことが増えると思いますか？



新ジャンル商品の飲用量が「減る」と回答した人に、かわりに何を飲むか聞いたところ、ビール発泡酒以外のお酒に流出する人も多く、1割弱の人は飲酒量自体が減る結果となりました。



## 消費者の皆様の声

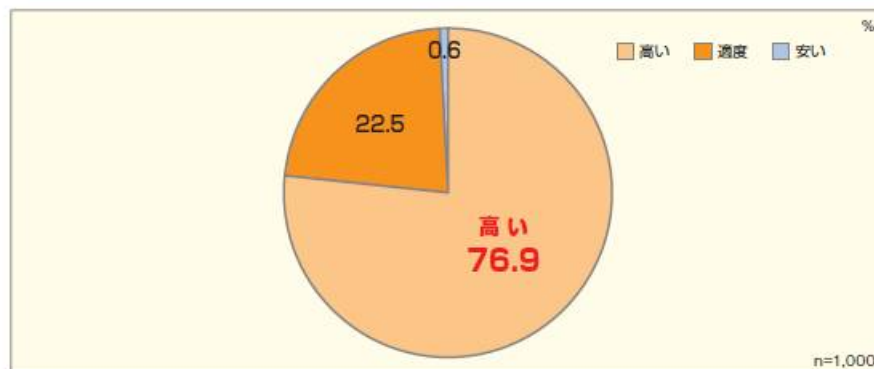
Q. 日本のビール・発泡酒の酒税額が、その他の発泡性酒類(缶チューハイ等)より高いことを知っているか



Q. 日本のビール・発泡酒の酒税額が、欧米諸国(フランス・ドイツ・アメリカ)より高いことを知っているか



Q. 2026年にビール・発泡酒の税負担が小売価格の36%程度になると想定されることへの評価



ビール・発泡酒の酒税額がその他の発泡性酒類より高いことの認知度は5割、諸外国より高いことの認知度は4割程度でした。

ビール・発泡酒の税負担率を具体的に示すと「高い」と評価する人が8割近くに上りました。

# 参考 加盟各社の代表的な製品

	アサヒビール	キリンビール	サッポロビール	サントリー	オリオンビール
ビール	 <p>アサヒスーパードライ</p>	 <p>キリン一番搾り生ビール</p>	 <p>サッポロ生ビール黒ラベル</p>	 <p>サントリーザ・プレミアムモルツ</p>	 <p>オリオンザ・ドラフト</p>
発泡酒	 <p>アサヒスタイルフリー</p>	 <p>淡麗グリーンラベル</p>	 <p>サッポロ極ZERO</p>		 <p>麦職人(生)</p>
新ジャンル商品	 <p>クリアアサヒ</p>	 <p>キリンのどこし(生)</p>	 <p>サッポロゴールドスター</p>	 <p>金麦</p>	 <p>サザンスター</p>

**ビール酒造組合**

ホームページ <https://www.brewers.or.jp/>

**発泡酒の税制を考える会**

ホームページ <https://www.happoshu.com/>